

## 岩木川治水80周年を記念して



青森県知事 木村 守 男

岩木川の治水事業が開始されてから今年で80周年を迎えられたことは誠に感慨深く、心からお祝い申し上げます。

岩木川治水事業は大正7年から本格的な改修事業として着手され、まず五所川原付近を中心とした堤防建設工事や、河口閉塞による十三湖の氾濫を防ぐための水戸口の突堤が築造されました。この突堤は日本海で河口処理した数少ない成功例として知られており、今なおその機能は十分に発揮され、近年水戸口50周年記念式典が開かれたことは記憶に新しいところであります。

その後、下流部を中心に改修工事が進められ、昭和35年には治水、利水の多目的ダムとして目屋ダムが完成し穀倉地帯として津軽平野を飛躍的に発展させました。

しかし昭和50年、52年と相次いで大きな出水に見舞われ、特に昭和52年8月の洪水においては、各所で氾濫し大きな被害が発生しました。

これを契機に昭和53年「岩木川緊急施工計画」が策定され、これに基づき掘削、築堤工事が集中的に進められ、昭和63年度には流下の最大のネックとなっていた芦野頭首工の改築が完了しました。さらに昭和48年より建設を進めていた治水、利水を目的とした多目的ダムの浅瀬石川ダムが完成し、穀倉地帯である南黒平野の飛躍的な発展に寄与しました。

また上流部については、昭和50年洪水を契機に採択された激甚災害対策特別緊急事業（昭和51年～52年）による抜本的な改修が促進され、現在では中流部の改修が進められています。

中流部においては、平成9年5月の大雨と融雪による洪水を含め毎年洪水が発生しているところであり、抜本的な対策としては、地元住民から強く要望が出されている津軽ダム（平成3年着手）の早期完成が待たれるところであります。

また、平成9年の河川法の改正により整備の新たな視点として環境保全が加えられ、岩木川、平川合流部、藤崎町白子地区において「健康で豊かな生活環境と美しい自然環境の創造」のため、水辺の学習広場の整備が進められています。

これらは私の念願である「安全な県土と安心できる生活環境」実現のため、必要不可欠なものであります。

今後、岩木川の治水事業が新しい時代の要請に即応され、ますます県民生活の基盤となる社会資本として整備が図られますよう心からお祈りしてお祝いの言葉とします。